

石川県漁海況情報



428号
2019年6月14日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>
携帯電話 http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html



本号の概要

小型いか釣りのスルメイカ水揚状況（期間:5月1日～6月9日）

- 水揚量は前年を上回り、過去5年平均並みになっています。
- 入港1隻当たりの水揚量は前年を上回り、過去5年をやや下回っています。

石川県主要港の水揚状況（期間:5月16日～31日）

- 定置網ではサワラ・サゴシが低調に推移しています。

水産総合センター・ピックス

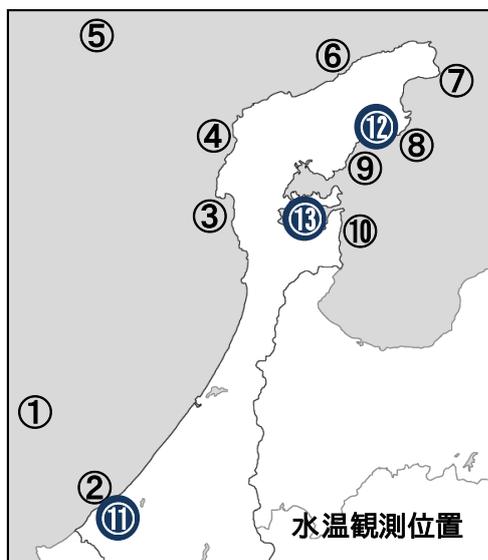
- 「電子標識（アーカイバルタグ）を付けたブリを多数放流しました!」「謎の卵!？」

石川県周辺海域の水温（期間:6月2日～6日）

■ **沿岸の海面水温** 6月6日の本県周辺（海岸線より30海里程度）の海面水温は19～20℃台で、過去5年平均との差は+0.5～+1.0℃程度でした。

■ **沿岸観測ブイの水温** 今期の水温は18.8～20.0℃で、5月中旬から約3.0℃上昇しました。前年同時期との差は+0.4～+1.9℃、過去3年平均との差は+0.5～+1.7℃でした。

■ **港内の水温** 今期の水温は19.3～21.9℃で、前年同時期との差は+0.3～+1.5℃、過去3年平均との差は+0.7～+1.5℃でした。



沿岸観測ブイの水温（深度10mの値）

観測位置	5日間平均 6/2～6/6	前年差	過去3年 平均差
① 橋立沖	休止中	データなし	データなし
② 橋立沿岸	20.0	+1.2	+0.8
③ 富来沿岸	19.6	+1.4	+1.1
④ 門前沿岸	19.7	+1.9	+1.7
⑤ 猿山岬沖	休止中	データなし	データなし
⑥ 曾々木沿岸	19.7	+1.3	+1.1
⑦ 小泊沿岸	19.2	+0.4	+0.5
⑧ 小浦沿岸	19.1	+0.9	+0.7
⑨ 鶴川沿岸	18.8	+0.6	+0.5
⑩ 岸端沿岸	18.9	+0.8	+0.5

港内の水温（深度1.5m・午前9時の値）

観測位置	5日間平均 6/2～6/6	前年差	過去3年 平均差
⑪ 橋立港	21.7	+1.5	+1.5
⑫ 宇出津港	19.3	+0.5	+0.7
⑬ 石崎港	21.9	+0.3	+1.1

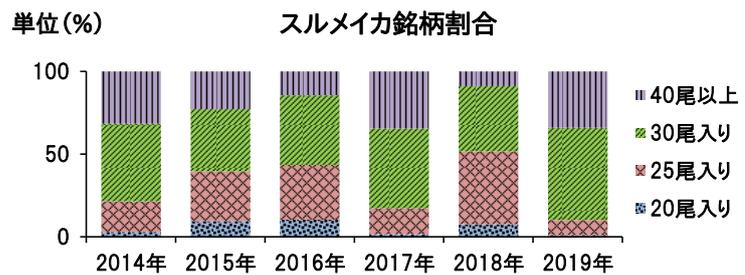
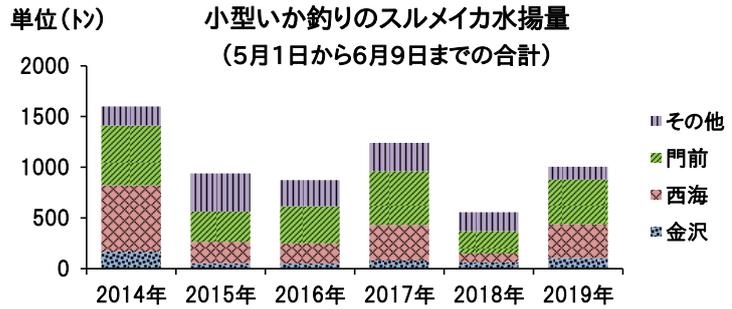
小型いか釣りのスルメイカ水揚状況（期間:5月1日～6月9日）

■ 小型いか釣り漁船によるスルメイカの水揚げは中盤に入っています。5月1日から6月9日の県内水揚量は1,006トンであり、前年（557トン）を上回り、過去5年平均（1,042トン）並みで推移しています。

■ 銘柄別の箱数割合をみると、30尾入りと40尾以上入りが全体の90%を占めており、前年（48%）および過去5年平均（69%）よりも割合が高く、前年および過去5年平均に比べて魚体は小さめです。

■ 5月の延べ入港隻数を集計したところ、今年の入港隻数は1,778隻

であり、前年（1,230隻）を上回り、過去5年平均（1,733隻）並みになっています。入港1隻当たりの水揚量を求めたところ、今年は385kgで、前年（206kg）を上回り、過去5年平均（447kg）をやや下回っています。従って、今年の県沿岸へのスルメイカの来遊量は前年を上回り、過去5年平均をやや下回っていると考えられます。6月9日現在、漁場は西海・門前・輪島沖にあり、佐渡以北ではまだ本格的な漁場は形成されていない模様です。



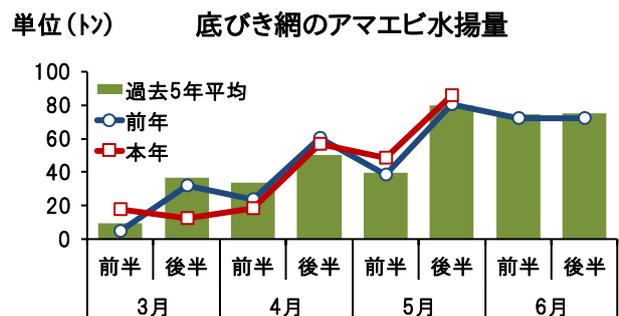
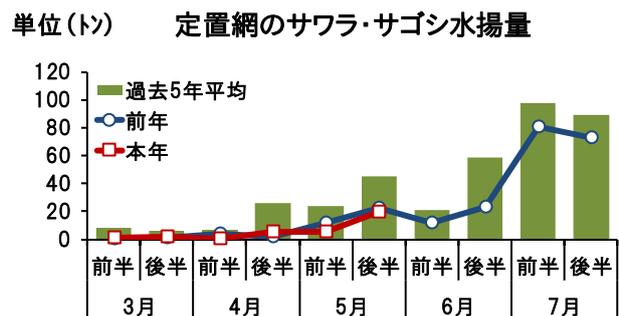
石川県主要港の水揚状況（期間:5月16日～31日）

■ **定置網** マイワシ・ウルメイワシは前年を上回り、フグ類・マアジは前年並み、フクラギ・ブリ・ガンド・サバは前年を下回りました。サワラ・サゴシは20トン水揚げされました。3月前半から5月後半までの累計は34トンで、前年（41トン）および過去5年平均（117トン）を下回りました。

■ **まき網** マアジは前年並み、マイワシ・サバは前年を下回りました。

■ **底びき網・ごち網** ハタハタ・フグ類は前年を上回り、ニギスは前年並み、アカガレイは前年を下回りました。アマエビは86トン水揚げされました。3月前半から5月後半までの累計は239トンで、過去5年平均（249トン）並みでした。

■ **刺網・釣り・その他** ベニズワイガニ・イワガキ・ヤナギバチメは前年並みでした。



集計期間 5月16日～5月31日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
定置網									
まいわし				0.0	277.8	199.8	204.8	682.5	266.0
ふくらぎ・こぞくら	5.5		22.1	43.5	0.8	13.4	27.3	112.7	145.3
ぶり	3.2		26.4	12.4	7.7	20.6	23.3	93.5	163.5
がんど		0.3	0.6	17.7	16.5	20.1	21.5	76.7	110.2
ふぐ類	0.6	0.0	16.4	21.5	6.5	14.9	10.2	70.2	59.7
まあじ	8.5	0.9	1.6	7.8	17.5	9.3	22.1	67.7	61.0
うるめいわし					1.6	43.4	5.3	50.4	3.1
さば	0.0		0.5	3.4	1.8	3.7	15.0	24.4	85.7
さわら・さごし	1.5	1.4	2.1	0.2	0.0	2.4	12.2	19.9	22.6
まだい	0.5	0.0	1.4	5.2	1.2	3.2	7.3	18.8	10.1
その他	5.8	0.1	13.6	11.8	5.3	21.6	33.9	92.2	70.7
合 計	25.6	2.8	84.7	123.5	336.6	352.4	383.2	1308.8	997.9
まき網									
まいわし	—		198.7			—		198.7	845.7
まあじ	—			55.2		—		55.2	46.3
さば	—		27.7	20.9		—		48.5	281.2
まだい	—			23.3		—		23.3	4.0
うるめいわし	—		20.1			—		20.1	41.6
その他	—		0.0	10.3		—		10.3	155.0
合 計	—	—	246.5	109.6	—	—	—	356.1	1373.8
底びき網・ごち網									
あまえび	13.2	55.2	0.4	9.2	7.7		—	85.6	80.5
にぎす	0.3	35.9	22.0	1.8	0.1	0.7	—	60.7	59.6
はたはた	3.6	0.1	1.9	8.5	14.3	8.1	—	36.5	16.8
ふぐ類	0.1	0.7	14.7	20.8	0.1		—	36.3	17.5
あかがれい	10.2	4.4	2.3	12.0	0.6		—	29.6	46.5
その他	21.6	18.1	5.5	73.9	5.3	0.1	—	124.5	135.5
合 計	48.9	114.4	46.7	126.2	28.1	8.9	—	373.2	356.5
刺網・釣り・その他									
べにずわいがに		39.8	16.9	2.1				58.8	52.2
いわがき				22.0			0.0	22.0	21.5
やなぎばちめ(ウスマール)		0.1		11.8	0.0	0.1	0.4	12.4	14.2
まだい	0.1	0.0	0.3	8.7	0.1	0.5	0.2	9.9	11.4
ふぐ類			4.5	4.0	0.0	0.0	0.2	8.7	6.3
さざえ			0.9	0.2	1.0	4.1	2.6	8.7	8.8
まだこ	0.0	0.0		0.2	0.5	2.2	3.2	6.2	6.9
がんど			0.8	3.6	0.4	0.1	0.1	5.2	6.9
その他	3.7	2.7	8.0	28.4	3.2	4.0	6.7	56.7	66.9
合 計	3.9	42.7	31.4	80.9	5.3	11.0	13.4	188.5	195.1
小型いか釣り									
するめいか20入り		7.7	3.0	0.6	0.8	0.2		12.4	2.0
するめいか25入り		25.4	13.5	10.5	6.1	0.4		56.0	19.7
するめいか30入り		14.9	8.4	17.2	8.8	0.6		50.0	136.7
するめいか40入り以上		1.9	1.5	3.9	2.4	1.2		10.8	85.1
合 計	—	49.9	26.4	32.3	18.1	2.4	—	129.1	243.5
総 計	78.4	209.8	435.7	472.4	388.1	374.7	396.5	2355.7	3166.8

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

電子標識(アーカイバルタグ)を付けたブリを多数放流しました!

■ 石川県水産総合センターでは、ブリの回遊生態を明らかにするため、日本海区水産研究所、関係県水産研究機関、石川県定置漁業協会と連携・協力し、5月下旬に曾々木沖で電子標識を付けたブリ(ガンドとフクラギを含む)を147尾放流しました。

■ この標識には、深度・水温・照度センサーが組み込まれており、それらのデータが本体に長期間記録されます。放流後、漁獲されたブリから標識を取り出し、内部データを解析することで、そのブリの回遊経路、遊泳深度、経験水温を知ることができます。今回の放流は電子標識を用いた放流としては、過去最多尾数の取組みであり、ブリの回遊生態が一層明らかになり、近年の北海道での豊漁や北陸での漁獲量減少の要因が解明できるものと期待されます。

■ 標識の付いたブリを漁獲・水揚げした場合には、漁獲した日付と位置、魚体の大きさ、魚体の有無を石川県水産総合センター海洋資源部(0768-62-1324)までご連絡下さい。科学的に重要なデータを持つ標識魚なので、可能な限り魚体ごと回収させていただきたいと考えています。(四方崇文)



謎の卵!?

■ 5月17日に能登島向田町の方から「向田漁港に謎の卵が浮いている」との情報があり、卵の写真とその一部をいただきました。卵は透明なゼラチン質で覆われており、一見するとカエルの卵のようでした。発見者によると、卵は帯状になって数メートルにわたり海面に浮いていたとのことでした。この状態では何の卵かわからないので、センターでふ化させ、産まれた仔魚(ふ化直後の幼魚)を観察してみましたところ、この卵はキアンコウのものであることがわかりました。キアンコウは一般に「アンコウ」として親しまれる魚の標準和名です。本種は4~6月に水深50m以浅で産卵するとされており、その卵は帯状となって海面付近を漂います。おそらく富山湾内で産み出されたものが七尾湾に入り、向田漁港に流れ着いた珍しい事例と思われる。

■ キアンコウは冬の代表的な味覚のひとつです。県内では主に底曳網や定置網、刺網で漁獲されており、年間80トン前後が水揚げされています。特に、能登半島の先端に位置する珠洲市では冬にあんこう祭りが開催されており、地域にとって大変重要な魚種となっています。今年の冬は是非ともキアンコウを味わってみてください。(内藤隆介)

